

## (第 81 回) KS クラブ議事メモ

開催日	2018年4月10日(木)	出席者 敬称略	西村二郎、松村眞、持田典秋、猪股勲、 宮本公明、神田稔久(文責) ゲスト： 大谷宏氏
時間	15:00~17:00		
場所	かながわ県民センター		
資料	電力システム改革(大谷 宏)		
議題	<p>1 技術課題</p> <p>電力システム改革</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発表者の問題意識 電力システム改革で何が変わるのか？ 電力料金は安くなるのか？</li><li>・発表者の認識 電力システム改革は迷路に入っている。 再生可能エネルギー大量導入には解決すべき、制度的・技術的問題が多く残っている。 電力価格は下がらない、大幅上昇を抑えるのが精一杯と思われる。 東電はどうなるのか？(原発事故債務の返済は可能か？ 債務の返済と他の競合者との自由競争には矛盾があり、それをどう解決して行くのか？) ドイツは模範とはなり得ない。(、FITコストの負担増、電力価格は上昇、褐炭火力依存は不可避の現実がある。)</li></ul> <p>発表者からのコメント</p> <p>参加者からのコメント</p> <p>電力自由化の課題が、わかりやすい資料と説明で見えてきた気がします。ありがとうございました。気になったのは2点。一つは福島事故がなければ電力の自由化ができなかったのかという疑問です。もしそうなら、大きな変革には大規模な犠牲が必要ということになります。外圧や犠牲なくして、自立的な変革は不可能なのでしょうかね。第2点は懇親会でも話題になったように、大手の化学会社やエンジニアリング会社が当事者なら事故を防げたのかという疑問です。もしそうなら、テクノロジーマネジメントの点で、電力会社と何が違うのか整理する価値があるように思いました。組織構成、責任体制、技術管理、リスクマネジメント、人材育成などの違いが明確になれば、SCENetの提言に結びつけられるのではないかとお思いました。 (松村)</p> <p>再生可能エネルギーのジレンマが単純な高価格問題ではなく、ベース電源に対する脅威である事を初めて知りました。ただ、エネルギー源を脱火力、脱原子力で進めるためには、再生エネルギーの電力貯留(大容量電池)で解決するしかないと思われます。このため、現在の賦課金を電池設備の増強に当てる事、ピークカット契約にインセンティブを与えて、家庭でも工場でも設備化が進むようにすることが必要ではないでしょうか。(宮本)</p>		

	<p>2. 今後の予定</p> <p>6月12日 小林氏</p> <p>7月10日 持田氏</p> <p>8月14日 神田氏</p> <p>9月11日 松村氏</p> <p>10月9日 JALグループ安全啓発センター見学</p> <p>11月13日 山崎氏</p> <p>12月11日 猪股氏</p>
<p>次回日程</p>	<p>2018年5月8日(木)</p> <p>1. 横浜港見学会</p>
<p>次々回日程</p>	<p>2018年6月12日(木) 15:00-17:00</p> <p>1. 技術課題 小林氏</p> <p>2. その他</p>